親切は難しい

大和市立緑野小学校
六年五組
市川　比路

ぼくは、夏休みに入る直前、ハンドボールの練習中に右ひじの内側をはくり骨折してしまいました。はくり骨折は骨が折れることではなく、骨と骨の間がはがれてしまう骨折の種類です。今は、リハビリ中で、右うでは動かせるのですが、骨折した始めの方は右うでにギプスをつけて動かせない状態でした。骨折をして、小学校最後の夏休みなのに外で遊ぶことや、ハンドボールの練習や試合にも参加できず、見ているだけでした。

骨折をして、友達や周りの人がやさしくしてくれたり、物を持ってくれたり、ひじに当たらないように気をつけてくれました。また、骨折をしたことによって今まで行ったことが無かったリハビリやトレーニングジムで色々な人たちと出会い、そのような人たちはとても親しみやすく話しやすかったです。もし人

と関わることが多い仕事に就くならばリハビリやトレーニングジムの人たちのようになりたいなと思います。

今までねんざや脱臼はしたことがあるのですが、骨折したのは初めてだったので、何週間も片方のうでを固定していることで多くのことに苦労しました。骨折して片手でものを持つことや本を読むことが大変でした。でもそれよりも幸かったことは友達や周りの人に気を遣わせてしまうことや、自分一人でできることなのに友達がやってくれたり、いつも通りの友達との関りが難しかったことです。このまま友達との関係が変わってしまわないかとても心配でした。さらには、友達と遊ぶことが減り、友達と会う機会も減ってしまいました。

骨折をして感じたことがあります。それは、親切は難しいということです。親切にしようという気持ちは、ときには相手を困らせてしまうこともあるからです。けがをしている人

は、いつも手伝ってほしいとは思っていないと思います。もしもこれから逆の立場になったときに、無理に手伝うのではなく、「何か手伝う？」「何か困っていることある？」のように聞いて相手の気持ちを大事にしたいと思います。そしてけがをする前となるべく同じように友達と接したいと思います。

20 × 20